

トレドの軍事博物館に桜を植樹

日本旅館国際女将会 日西国交400年を記念し

日本旅館国際女将会(若松佐代子会長)は9月10日、日西国交400年を記念し、両国友情の印として、スペインのトレド市にある軍事博物館の庭園中央に5本の桜を植樹した。



軍事博物館を案内してもらう国際女将会の皆さん

この植樹式典は、日西観光協会の下平晴朗会長の仲介により実現したもので、日本ホテル教育センターの企画による「世界のホスピタリティ体験ツアー3スペイン」(9月5～12日、バルセロナ～グラナダ～ミハス～ロンダ～セビーリャ～マドリッド)の旅程内で公式行事として実施された。スペイン側はアナ・イザベル・フェルディナンデス・デル・バリオ・トレド観光局長、フェルナンド・リベラ・カステリーニャラマンチャ州観光局長、ホセフェデリコ・フェルディナンデス・軍事博物館館長、パロマ・グティエレス・カステリーニャラマンチャ州観光局担当をはじめ10人の館員が参列。日本側は11人が参加した。

両国の国旗を掲揚し、国際女将会に加え、「新つた」(福島県)、「滝乃家」(北海道)、「下呂観光ホテルしょうげつ」(岐阜県)、「専門学校日本ホテルスクール」(東京都)、それぞれからも苗木が提供された。

フェルナンデス館長は、「この植樹が米国のポトマック河畔の桜のように両国友好のシンボルとなり、世界中の人々が訪れることを期待する」とあいさつ。また下平会長は「1611年の慶長三陸地震から2年後に慶長遣欧使節団がトレドを訪問した。2011年の東日本大震災から2年後に国際女将会の一行がトレドに訪問したのも歴史の偶然か」と語った。

今回の参加者は、新つた・若松佐代子、吉田美喜、滝乃家・須賀紀子、下呂観光ホテルしょうげつ・長坂正恵、四季彩一力・小口潔子、紅葉館別邸あざれ・松本富子、富士野屋夕亭・河野暢子、長生館・荒木紀子、かよう亭・上口和子、マザーレイク・松原富子、日本ホテル教育センター理事長・石塚勉の11人(敬称略)。



ホセフェデリコ・フェルナンデス・軍事博物館館長(中)と若松会長(左)、小口名義会長(右)

日本ホテル教育センターが企画



植樹をしている須賀さん

世界のホスピタリティ体験ツアー3



パロマ・グティエレス・カステリーニャラマンチャ州観光局担当から植樹認定書を授与された長坂さん(右)



現地の観光局長関係者(左から、アナ・イザベル・フェルディナンデス・デル・バリオ・トレド観光局長、フェルナンド・リベラ・カステリーニャラマンチャ州観光局長、ホセフェデリコ・フェルナンデス・軍事博物館館長、パロマ・グティエレス・カステリーニャラマンチャ州観光局担当、日西観光協会下平晴朗会長)

懇親会で

